

山梨大学教育学部における教員育成に係る 少人数グループワーク型基幹授業群の効果に関する研究

Effects of the Revised Curriculum Concerning Teacher Developments Based on Small Group Activities
Towards the Students at the School of Education in the University of Yamanashi

成 田 雅 博*	秋 山 麻 実**	田 中 武 夫***	高 橋 英 児**
NARITA Masahiro	AKIYAMA Masami	TANAKA Takeo	TAKAHASHI Eiji
塚 越 奈 美**	鳥 海 順 子**	新 野 貴 則****	服 部 一 秀*****
TSUKAKOSHI Nami	TORIUMI Junko	NIINO Takahiro	HATTORI Kazuhide
古 家 貴 雄*****	吉 井 勘 人**	古 屋 義 博**	
FURUYA Takao	YOSHII Sadahito	FURUYA Yoshihiro	

要約：山梨大学において2006年度入学生より実施している少人数グループワーク型基幹授業群の評価の一環として、4年間のカリキュラム終了時に実施したアンケートにより、学生から教育者へと教職観の転換がおおむね達成されたことが示唆された。

キーワード：教員養成，教師教育，大学教育，少人数グループワーク，教職観

I はじめに

現在の山梨大学の教員育成は、2006（平成18）年度入学生より実施された「少人数グループワーク型基幹授業群」が主体となっている。本稿では、これまでに実施されてきたこのカリキュラムを概観したうえで、受講学生によるアンケートから、このカリキュラムによって、教育観・子ども観・学校観がどのように変容したか、また、学生が受動的な「学び」のみを行う「被教育者」から、授業者として授業の設計・実施・評価を行う「教育者」への意識改革に、どのように寄与したかを探究する。

II 少人数グループワーク型基幹授業群の概要

現在の山梨大学の教員育成は、2006（平成18）年度入学生より新規に実施することとなった、少人数グループワーク型基幹授業群が大きな役割をはたしている。教員養成カリキュラムの抜本的な再検討の中で、地域密着型教員養成のあり方を志向し、具体的な改革の方策として以下があげられた。

「①少人数クラスでの一貫した指導体制の構築，②教育ボランティアの推進，③これらを統括・指導する「授業臨床部会」の新設，④地域の教育関係者で構成される「教育研究協議会」の拡充・深化」（寺崎 2009）。

その当時の，授業臨床部会運営委員長の寺崎氏は，教職に関する基礎的な実践的力量形成のため，教職科目の基幹となる以下の授業科目群を少人数グループワーク型の指導とすることとしたと述べ

* 教育支援科学講座・附属教育実践総合センター ** 教育支援科学講座 *** 言語文化教育講座

**** 芸術文化教育講座 ***** 社会文化教育講座 ***** 教育実践創成講座

ている。そのために、数名の教員が協同で一つの科目を担当し、20名程度のクラスごとに授業が行われている。

より具体的には、教職基幹科目において、以下の科目を開設している（寺崎 2011）。

- ・ 1 年前期 初等理科実験（2 単位）
- ・ 1 年後期 教育の現在（教育原理を含む。）（4 単位）
- ・ 2 年前期 教育課程臨床論（2 単位）
- ・ 2 年後期 授業分析論（教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。））（2 単位）
- ・ 3 年前期 授業設計論（事前指導）（1 単位）
- ・ 3 年集中 授業実践論（事後指導）（1 単位）
- ・ 4 年後期 教職実践演習（1 単位）

以下に、平成30年度の各科目のシラバスの概要を示す。

（1）初等理科実験

- 授業の目的および概要 教小学校教員として理科の授業、特に実験の演示と指導が行えるだけの素養を修得する。左記目的のため、物理・化学・生物・地学・理科教育学の5分野に関わる内容の実験をそれぞれ3回、全部で15回行う。
- 到達目標 基本的な実験器具を正しく扱えるようになる。実験を通じて観察された自然現象はどのように展開しているか、またその現象がどのような法則に基づいているのかを説明できるようになる。
- 授業の方法 定員125名の学校教育課程の学生をAからEまでの5班に分ける。各班は次の順番で5分野の実験を行う。A班：物理－化学－生物－地学－理科教育学， B班：化学－生物－地学－理科教育学－物理， C班：生物－地学－理科教育学－物理－化学， D班：地学－理科教育学－物理－化学－生物， E班：理科教育学－物理－化学－生物－地学。（詳しくは新入生ガイダンスで配布の資料を参照のこと。）受講生各自は実施した実験のレポートを翌週、提出する。
- テキスト なし
- 参考書
 1. 八杉龍一 他，生物学辞典，岩波，ISBN:4000800876
 2. 若林徹哉 他，普及版やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック，合同出版，ISBN:4772604383

（2）教育の現在

- 授業の目的および概要 教育とは、人間が生まれ成長し生きていく過程を見守り育み支える営みである。そのような営みは、生の多様性に即してまた多様である。そうした教育の本質・歴史・思想について全体講義によって理解するとともに、学校教育のみに覆いつくされない教育の多様な姿に直接に接して理解し、そこから何をを読みとるべきなのか、少人数グループに分かれて見学し発表し議論する。
- 到達目標
 - ・「教育」の概念と思想、および「教育を受ける権利」を保障する制度についての基礎的知識を習得するとともに、子どもの育ちに関する今日的課題について高い問題意識を持つ。
 - ・子どもを育む様々な社会システムの実際を見聞して、視野を広める。
 - ・少人数グループでの話し合いに積極的に参画する（話し合いの運営、意見の発表など）。
- 授業の方法 履修者全員に対する講義と、少人数での演習（履修学生を1クラス25名程度の少人

数クラスに分け、それぞれのクラスに担当教員が配置される）を併用して行う。少人数での演習では、多様な教育の現場について、実際に出かけて見学させていただいたり、現状についての説明をうかがったりした後、自分たちで調べたこと感じ考えたこと等を中心に発表と討論を行う。最後に報告書をまとめる。

●テキスト なし

●参考書

1. 藤田英典・田中孝彦・寺崎弘昭, 教育学入門, 岩波書店, ISBN:4000039598
2. 寺崎弘昭・周禅鴻, 教育の古層, かわさき市民アカデミー出版部, ISBN:491609283X

(3) 教育課程臨床論

●授業の目的および概要 学校教育における教育課程の編成および実現プロセスに関する学校臨床的な課題を取り上げつつ、教育課程とはなにか、教育課程の意義および編成の方法についての理解を得る。学校教育の実際を考察することで、学生自身の高校までの学校教育体験を再考する機会とする。

●到達目標 学校教育における教育課程の編成および実現プロセスについて具体的に理解し、自己の教育体験を振り返ると共に、教育課程の意義および編成の方法について、教育をする側の視点から考察することができる。

●授業の方法 受講者数が20～25名程度の少人数でゼミを行う。大学院研修等で山梨大学に来ている現場教師を交えて意見交換、ビデオによる学校教育の実際などを積極的に取り入れる。それらをもとに、テーマについての意見発表、意見交換などを行う。

●テキスト なし

●参考書

1. 柴田義松, 教育課程 カリキュラム入門, 有斐閣コンパクト, ISBN:4641046308
2. 柴田義松編, 新・教育原理 (改訂版), 有斐閣双書, ISBN:4641112371
3. 佐藤学, 教育方法学, 岩波書店, ISBN:4000260057
4. 中野光他編, あっ！こんな教育もあるんだ 学びの道を拓く総合学習, 新評論, ISBN:479480704X
5. 山下政俊・湯浅恭正編, 新しい時代の教育方法, ミネルヴァ書房, ISBN:9784623061655

(4) 授業分析論

●授業の目的および概要 4人程度のグループごとに、附属幼稚園・小学校・中学校における教育実習生の研究授業のビデオ映像や学習指導案, 教材等を対象に授業分析を行う。8グループ程度が出席するクラスごとに、授業研究カンファランスを行い、グループによる発表、クラス内での意見交換を行う。さらに、すべてのクラスが一同に会し、全体授業研究カンファランスを行う。同一授業を分析したグループによる異なる授業分析結果の比較やディスカッションをとおして、授業を見る目を養い、授業分析の技法を修得する。

●到達目標

- ・授業改善の方法に関する知識を修得する。
- ・初歩的な授業分析に必要な技法を修得し、あわせて教育の方法及び技術および教材開発・評価に関する実践的力量形成をうながす。
- ・授業を記述し、他者に伝える能力を育成する。

●授業の方法

- ・最初の2回は講義を行う。
- ・次の11回は5クラスに分かれ、クラス内で4人程度のグループで授業分析作業やクラス内授業カンファランスを行う。
- ・最後の2回は、5クラス合同で全体授業カンファランスを行い、同一授業を分析した他のグループを中心に意見交換・討論を行う。

●テキスト 稲垣忠彦・佐藤学，授業研究入門，岩波書店，ISBN:4000039482

（5）授業設計論（事前指導）

- 授業の目的および概要 教育実習における事前指導を含む。基礎的な授業技術、学習指導案作成の仕方を習得する。
- 到達目標 教育実習に必要な理論、技術、方法の習得、態度の育成を目標とする。
- 授業の方法 多人数の集中講義と20名程度の少人数での演習を併用して行う。学習指導の基礎的な方法、考え方に関して山梨県教育委員会、甲府市教育委員会の専門職担当者の講義を行う。指導案の作成については附属学校園の教員が直接指導を行い、マイクロティーチングなどの模擬授業もあわせて行う。
- テキスト 山梨大学教育人間科学部，教育実習の手引き

（6）授業実践論（事後指導）

- 授業の目的および概要 教育実習における事後指導を含む。教育実習で行った自らの授業をもとに教授活動を反省的に考察する。
- 到達目標 子どもの学習過程を中心に分析することで、教材の内容、指導法、評価などについて改善の方向性を考えることができるようにする。
- 授業の方法 20名程度の少人数での演習を中心に行う。教育実習で行った自分の授業記録をもとに授業分析を行う。授業の指導案、付属学校園の教員の指導内容などの成果を活用して受講者同士や学部4年生および附属学校教諭を含めた授業研究会、反省会を行う。ディスカッションを通して、生徒たちの学びが成立する指導法や教材についての理解を深める。
- テキスト 山梨大学教育人間科学部，教育実習の手引き

（7）教職実践演習

- 授業の目的および概要 大学4年間で学んだ教職・教科に関する様々な知識と教育実習等で得られた実践的指導力との統合を図りながら、教師としての資質の総合的な向上を目指すために、主に次の4つの事項について理解する。
 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
 2. 社会性や対人関係能力に関する事項
 3. 幼児・児童・生徒理解に関する事項
 4. 教科等の指導力に関する事項その他、ゲストスピーカーとして招聘した山梨県で活躍中の実務家教員の講義をとおして、「山梨県教育」という観点からの地域理解を深める。
- 到達目標
 1. 大学4年間で学んだ教職・教科に関する知識・内容を振り返り、今後教師になった場合の課題を確認し、自己の不足点を補うこと。
 2. 各テーマに沿った講義を踏まえて、討論やロールプレイなどの演習を通して、各人の教師の

資質に関わる課題について、問題解決を図ること。

3. 各教科や専攻における課題を各自が取りあげ、それを深化、研究し、その成果を模擬授業や授業研究を行うことにより、課題の共有化を図ること。
4. 教育に関する現代的課題を把握し、それへの対応を独自に考え、自身の教育観を形成すること。
5. 山梨の学校教育という枠組みから地域理解を深めることを通して、一市民としてのより深い自覚を図ること。

●授業の方法

- ・第1単元：過去に受講した教職・教科に関する科目名と学習内容を確認し、今後教師になるにあたっての自己の不足点、課題点を確認する。
- ・第2単元：「授業の到達目標及びテーマ」で示された複数の項目を中心に、主として、山梨県で活躍中の実務家教員による講義を受講し、それを踏まえて、各コース・系に分かれて各テーマについて討論やロールプレイなどの演習を行い、各人の教師の資質に関わる課題について、問題解決を図る。
- ・第3単元：各コース・系で関係する教育的課題を取りあげ、討論やロールプレイなどの演習を行い、各人の教師の資質に関わる課題について、問題解決を図る。
- ・第4単元：総括を行い、振り返りシートを作成し、改めて教師になるための自己の課題を確認する。

Ⅲ 学生を対象とするアンケート

平成27年度から平成29年度までの4年生を対象に、本少人数グループワーク型基幹授業群の受講により、どれくらい教職観等の変革に影響があったかに関するアンケート調査を行った。次ページ以降に、アンケート質問紙と少人数グループワーク型基幹授業群全体の説明資料をあげた。

それぞれの年度の調査日及び有効回答数は以下のとおりである。

年度	調査日	有効回答数
平成27年度	2015年12月11日（金）	121
平成28年度	2016年12月16日（金）	124
平成29年度	2017年12月8日（金）	124

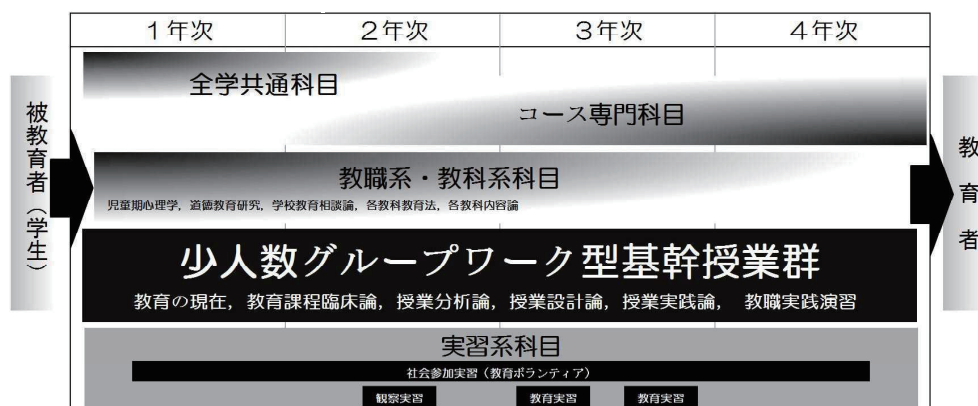
このアンケートの質問3で、自身の教職に関する考え方の変革を強く迫られたものとしてあげられた3科目の各年度での割合は図1のようであった。

教職実践演習受講者へ

授業臨床部会：古屋義博

この調査の目的

本学教員養成カリキュラム（以下の図および裏面参照）を改善するための意見収集です。



質問事項

設問1. あなたの所属を教えてください。該当に☑印を。

- ☐ 幼小発達教育コース ☐ 障害児教育コース ☐ 言語教育コース
☐ 生活社会教育コース ☐ 科学教育コース ☐ 芸術身体教育コース
☐ その他 ※学部や課程等→

設問2. あなたの現在の状況を教えてください。該当1つに☑印を。

- ・教員採用試験を受けた。
 ☐ 合格した。 ☐ 不合格であった。
 ・教員採用試験を受けなかった理由。
 ☐ 進学して、その後、教職をめざすから。
 ☐ その他（教職志望ではないため）。

設問3. 少人数グループ型基幹授業群の中で、教育観・子ども観・学校観など、教職に関する考え方の ^{metamorphosis} 変革 をあなたにより強く迫った授業を3つ選んでください。該当 3つ に☑印を。

- ☐ 1年次・前期 … **2単位** 初等理科実験
☐ 1年次・後期 … **4単位** 教育の現在
☐ 2年次・前期 … **2単位** 教育課程臨床論
☐ 2年次・後期 … **2単位** 授業分析論
☐ 3年次・前期 … **1単位** 授業設計論（教育実習事前指導）
☐ 3年次・後期 … **1単位** 授業実践論（教育実習事後指導）
☐ 4年次・後期 … **2単位** 教職実践演習

設問4. 設問3で選択した3つのうち、その ^{metamorphosis} 変革 を最も強く迫った授業（該当 1つ に☑印）と、そう考えた理由を簡潔に記してください。

- その授業 …
- | | | |
|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 初等理科実験 | <input type="checkbox"/> 教育の現在 | <input type="checkbox"/> 教育課程臨床論 |
| <input type="checkbox"/> 授業分析論 | <input type="checkbox"/> 授業設計論 | <input type="checkbox"/> 授業実践論 |
| <input type="checkbox"/> 教職実践演習 | | |

その理由 …

→ _____ から

(参考)

1 年次	4月	入 学	
	5月	初 等 理 科 実 験	小学校教員として理科の授業，特に実験の演示と指導が行えるだけの素養を修得する。
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月	教育の現在	適応指導教室，保育所，病弱教育，児童相談所など，子どもたちの育ちを支援する様々な機関を知る。
	11月		
	12月		
	1月		
2月			
3月			
2 年次	4月	教育課程臨床論	ビデオ視聴を通して学校教育や子どもの育ちに関する現状を知り，意見交換を行い，その理解を深める。
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月	観 察 実 習	
	10月	授 業 分 析 論	観察実習で収集したビデオ映像を用いて，授業分析の技法や効果的なプレゼンテーションの仕方を知る。
	11月		
	12月		
	1月		
2月	授 業 設 計 論	集中講義（附属学校の先生方）	
3月		—	
4月		直前指導と，複数回のグループワーク	
3 年次	5月	教 育 実 習	
	6月	（ 前 期 ）	
	7月	授 業 実 践 論 (1/3)	前期実習の事後指導（含・グループ討議）
	8月		
	9月	教 育 実 習	
	10月	（ 後 期 ）	
	11月	授 業 実 践 論 (2/3)	後期実習の事後指導（含・グループ討議）
	12月		
	1月		
	2月	授 業 実 践 論 (3/3)	集中講義（県教委の先生方）
3月			
4 年次	4月	学校制度・経営論	本学教育実践総合センター教員や山梨県総合教育センター関係者が行う授業をとおして，教育現場の現状や教師としてのやりがいについての理解を深める。
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月	教職実践演習	教職・教科に関するこれまでの学びを振り返り，教師になった場合の課題を確認し，自己の不足点を補う。
	11月		
	12月		
	1月		
2月			
3月	卒 業		

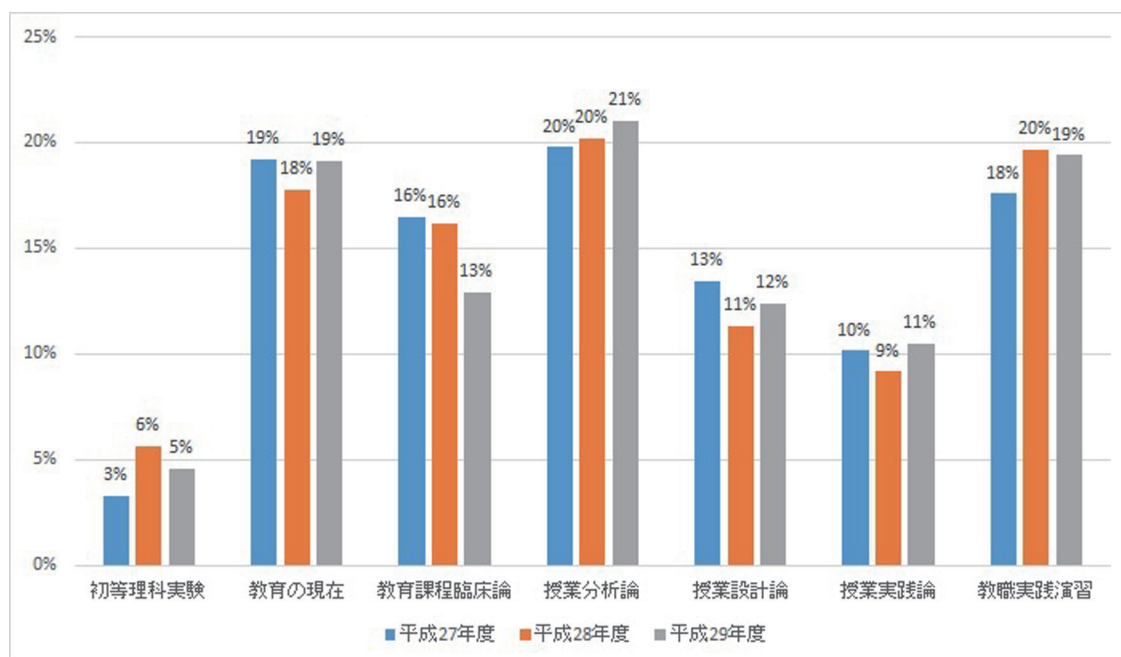


図1 学生自身の、教職に関する考え方の変革を強く迫られた3科目としてあげられた割合

また、特に自身の教職に関する考え方の変革を強く迫られた科目を調査した質問4に対する回答割合は図2のようであった。

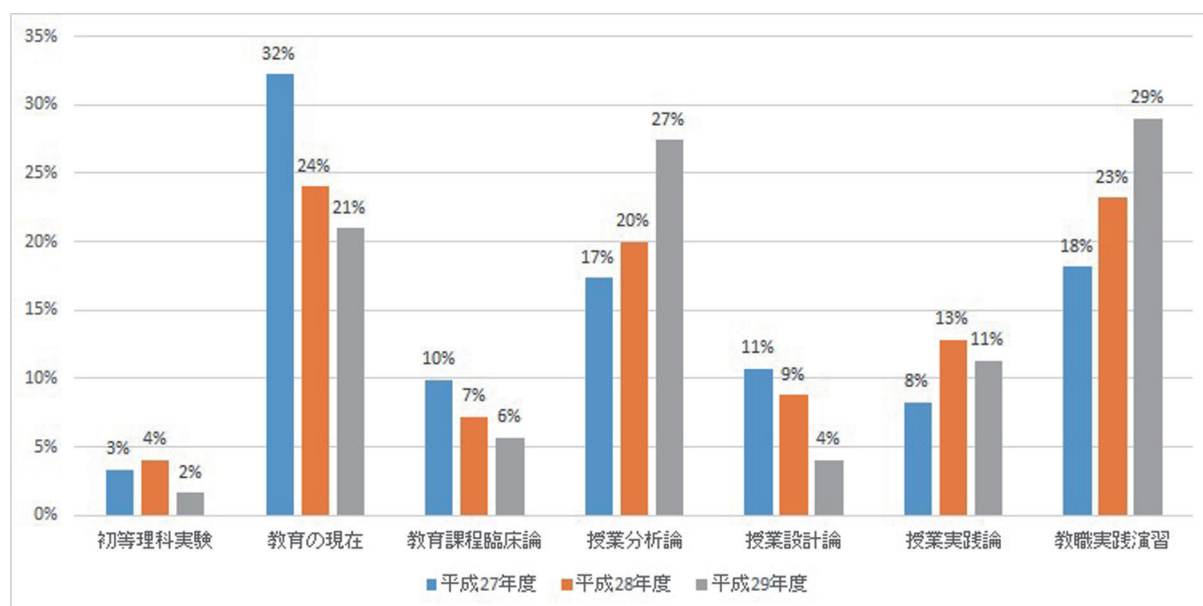


図2 学生自身の、教職に関する考え方の変革をもっとも強く迫られた科目としてあげられた割合

これらによると、「初等理科実験」と、教育実習の事前指導、事後指導にあたる「授業設計論」「授業実践論」は、ほかの科目に比較して教職に関する考え方の変革を迫る程度が比較的低いのに対し、「教育の現在」「教育課程臨床論」「授業分析論」「教職実践演習」が学生の教職観の変革をより多く導いていることが示唆される。

Ⅳ アンケートにおける自由記述

以下では、2017年12月8日（金）に実施したアンケートの4番目の設問において、もっとも教育観等の変革をもっとも強く迫られたと回答した科目ごとに、その理由に関する記述をあげる。

（1）初等理科実験

- ・教員の目線で理科実験の危険性や観察力が身についた。

（2）教育の現在

- ・大学に来て初めて子どもとふれ合う授業だった。
- ・実際に様々な施設を見学できたり、他コースと意見を交換しあったり、学びを深めながらプレゼンテーションをした最初の授業だった。
- ・名前は知っていたけれど、どんな施設か知らなかった所を実際に自分で行って理解することができた。
- ・学校に来ることができない子どもたちの実際の姿を見ることができた。
- ・実際に保育園や教育現場に行くことができ、実際の子どもの様子や先生達の動きを見ることができた。
- ・教育関係機関や子どもをとりまく様々な問題について初めて詳しく学ぶことができた。
- ・教育に携わる機関に、実際に訪問することで、教育の現状を目にすることができた。
- ・それまで、学校で働く教師しか意識していなかったが、教育に関する職はたくさんあり、関わり方も多様だということがわかった。
- ・保育園や裁判所など現場を見れた。
- ・様々な教育の現状、子どもの様子を知ることができ、教員になりたいと強く思うようになった。
- ・学校に関係する機関に実際に行くことができ、さらに自分達で学びを深めることができる。
- ・教員以外にも、子どもの育ちを支える仕事がたくさんあると気づいた。
- ・さまざまな現場を直接見ることで、教育ということを間近に感じることもできた。
- ・実際の教育現場を見ること、また話を聞くことで講義ではわからない世界を知ることができた。

（3）教育課程臨床論

- ・全く知らなかった教育現場（学校）における問題について各々の考え方を共有することができた。
- ・あるテーマに関してビデオを視聴し、友人と意見交換をすることで自分のテーマに対する考え方が深まっていった。
- ・実際に教育現場で起こったことをビデオや先生の話を通して、見たり、聞いたりしてためになった。
- ・実際の現場の映像を見て、自分に置き換え考えたことやよい教師になるとはどういうことかを考え直すことができた。
- ・実際の教育現場の様子（普段は見えない部分）を知れたことは、自分にとって大きく、教師の仕事の大変さを実感した。

（4）授業分析論

- ・他のコースの人と授業について話したことで、他のコースの大切にしていることを感じとれた。

- ・先輩の授業に対して様々な観点から考察することで、子どもが好きだけでは教師は務まらず、授業力やコミュニケーション能力、学問的な知識が必要だと思った。
- ・一つの授業をじっくりと、様々な視点から見ることで、うまく進んだと思った授業にも改善点が多々あり、変えていけることに気づけた。
- ・教育実習が始まる、先生になるといった自覚がもてるようになった。また、授業について深く考える機会になった。
- ・実際に先輩方の授業を見て分析することで、どのように授業を組み立てた方が良いのか、児童理解できるか等を考えられるようになった。
- ・今まで漠然としていた「授業」について、どういったものが良いのか、どうすれば子ども達がより多くのことを学べるかを考えるきっかけになった。
- ・今までは「受ける側」だった授業を「する側」として新しく認識する機会となった。
- ・実際の授業を分析する中で、他コースの学生と意見交換をし、新しい視点から授業を見ることができるようになった。
- ・先輩方の授業をよく見て細かく研究することで実習に向けた心構えに身が入った。
- ・授業というものを多面的にみる姿勢を身に付けることができた。
- ・やはり先輩方の授業を見ることで、来年の教育実習へのイメージがもてた。
- ・教育実習を行っている先輩の姿を見て、自分が教師となるイメージが少しずつできるようになった。
- ・数多くの授業を分析したり、発表を聞いたりする中で、授業の良し悪しなど分かってきた。
- ・受講前までは教育実習など、授業をすることにすごく大きな不安を持っていたが、実習の授業を見てやり方について深く考えることができ、自信になった。
- ・グループで授業分析を行ったことで、自分だけでは気づけなかった授業者の良い点や悪い点に気づくことができた。
- ・実際に教育実習での授業について分析することは普通の先生の授業を分析するよりも貴重な機会である。
- ・実際に行われている授業についてグループで分析することで、今まで持っていなかった考えを他の人から吸収することができた。

(5) 授業設計論（事前指導）

- ・教育実習直前に行われたことにより、子どもに対する教師としての責任を感じ、自分のあり方を深く考えた。
- ・この授業をとるまで、一からしっかり授業を作る機会がなかった。自分が授業をするうえで、何をどのように考えなければならないか深く考えさせられた。
- ・教育実習を行うにあたって現場の先生による話や授業をつくるグループワークなど、より実践的であった。
- ・教育実習への準備が本格化し、教育をする立場になるのだと自覚した。

(6) 授業実践論（事後指導）

- ・実習に実際に行って、今まで考えていた時よりも子ども観、教育観、学校観などをふかめることができた。
- ・教育現場から大学に戻り実習をふりかえった時に、「教員」っていいな、と強く感じた。
- ・実習に対する心構えをすることで、教職に就く準備ができた。

- ・教育実習が自分の中で大きなできごとであり、やはり現場が一番大事であると実感した。
- ・自分が行った授業を振り返り、反省することができた。
- ・教育実習を終えて振り返りをし、教育について人生で1番考えた。
- ・実習での自身の取り組みを振り返り、これまでの学びの成果を確認し、今後の課題を明らかにすることができた。
- ・自分が教育実習を経て、学び得たことを、第3者と共有し合いさらに高いレベルへ昇華する良い機会となった。
- ・実際に子どもたちと教育実習で関わり、授業実践論を通して振り返る中で、教師としての自覚が芽生えた。
- ・児童生徒とのやり取りを何度か想像したことがあったが、実際に児童生徒らを前にして、改めて授業設計の難しさを知った。
- ・教育実習を終えたということもあり、現場での経験を踏まえた今までとは違う角度から教育に関して思考できた。

(7) 教職実践演習

- ・今の現場の状況が一番分かりやすかった。今後の教員像を一番分かりやすく教えてもらったと思う。
- ・実際に社会に出るという実感をもった上で、リアルな意見交換を行うことができ、今後役立たい内容が多かった。
- ・4年間で教職に対しての知識が豊かになった分、様々な見方ができるようになった。また、来年から教員として教壇に立たなくてはならないという危機感を強く感じた。
- ・コースごとに話し合いを行った際に少数グループであったため、より深く話ができ、様々な意見を知ることができた。
- ・教員採用試験に合格した後なので、より授業内容が身近に感じた。
- ・教員になるという意識が高い中で、それぞれの教育観をぶつけ合うことができ、改めて自分の教育観を考え直すことができた。
- ・より実践的な教育現場での課題とこれからの教師に必要な力について考えられた。
- ・4年次というまとめの時期に教育課題について話し合い深めることができた。
- ・4年生になり、教職に関する知識や考えをきちんと持つことができ、そのうえで、改めて教職に対する考えや意見の交流を行うことができた。
- ・毎回異なる先生から話しをきけたこととグループワークを通して、これから社会人になるうえで、どういう人間になりたいかが考えられるようになった。
- ・教採が終わったあとの授業だったからこそ、より深まった授業になった。
- ・教育実習や、すべての授業を終えた中で、小グループで意見交換をし、新たな視点をみつけることができた。
- ・4年間一緒に学んできた人達だからこそ、気がねなく教育のことに関連する意見を交換でき、様々な意見を聞くことができたと思う。
- ・教職に関わる諸問題について、議論を重ねることで教育現場に対しての新しい見方・考え方が得られた。
- ・教育実習後、教育とは何であるべきか、教師とはどうあるべきかを考えさせられた。
- ・これまで教育についてちゃんと考える機会がなかったが、この授業を通して真剣に考えることができた。

- ・現在、教育現場が抱えている問題について、コースの仲間と話し合い考えが広がった。
- ・大学で学んだ教職課程の総まとめのような授業で、教師になるということの自覚ができた。
- ・本格的な教育現場での対応策や実施例を経験豊富な先生方に教えていただき、考えが変わった。

V 教育観・子ども観・学校観の変容

以上のように、カリキュラム全体によって、学生の教職観はおおむね、大学として意図した方向にむけての変容がうながされたと考えられる。

2019年（平成31）4月1日に、教職課程を有する全国の大学で、改正教育職員免許法（2016年11月28日公布）に基づく新カリキュラムが一斉に動き始め、そのための再課程認定申請に向けた作業の一環として、少人数グループワーク型基幹授業群も教育目標、教育内容等の一部変更等が行われる。今後は改訂された教員養成カリキュラムにおいて、本稿と同様の傾向があるかどうかの分析等が今後の課題となる。

謝辞

本論文においては、平成29年度の科目群受講学生アンケートの自由記述を引用した。受講学生に感謝する。

参考文献

古屋義博（2018）．教職課程の再課程認定申請に向けた作業についての報告．山梨大学教育学部 附属教育実践研究指導センター センターニュース No. 26. pp.10-11.

http://www.cer.yamanashi.ac.jp/web_up_file/ar/ar26.pdf（2018年10月25日閲覧）

稲垣忠彦・佐藤学（1996）．授業研究入門（子どもと教育）．岩波書店

成田雅博（2018）．授業研究を実践的に行う教職科目『授業分析論』受講学生の授業観・教師観の分析．山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践学研究 第23号. pp. 35-38.

寺崎弘昭（2009）．教員養成プログラム改革の現状と授業臨床部会．山梨大学教育人間科学部 附属教育実践研究指導センター センターニュース No. 17. pp.3-4.

http://www.cer.yamanashi.ac.jp/web_up_file/ar/ar17.pdf（2018年10月25日閲覧）

寺崎弘昭（2011）．質の高い新人教員を育て上げるための地域協同を．山梨大学教育人間科学部 附属教育実践研究指導センター センターニュース No. 19. pp.1-3.

http://www.cer.yamanashi.ac.jp/web_up_file/ar/ar19.pdf（2018年10月25日閲覧）